



陸
上
僊





同	于	慕
志	斯	于
之	日	斯
人	傳	勤

比世に於ては、
浪よきし、まひさうに、
端はわし、
若くは、
比世に於ては、
浪よきし、
端はわし、
若くは、
比世に於ては、
浪よきし、
端はわし、
若くは、

ひとを、
いかに、
他を、
なに、
ひとを、
いかに、
他を、
なに、
ひとを、
いかに、
他を、
なに、

文化丁卯春

西風を懐かす

三十六位仙扁額揭于祇祠南側
 舞也中浪華人水石藤益之可
 筆其大橫一尺豎一尺多半金地
 彩画用椽綠之其數三十六枚首
 尾二枚副之外格亦用椽為飾
 以鳥重被以布網其數五枚扁額
 畫收於其內而半楹上以面卷無餘地
 矣



浪華
 瑞馬

たつて乃
 考
 事
 集
 特

大坂
白瀝

三葉

花

白



浪華
夜來

白

花

白

花

白



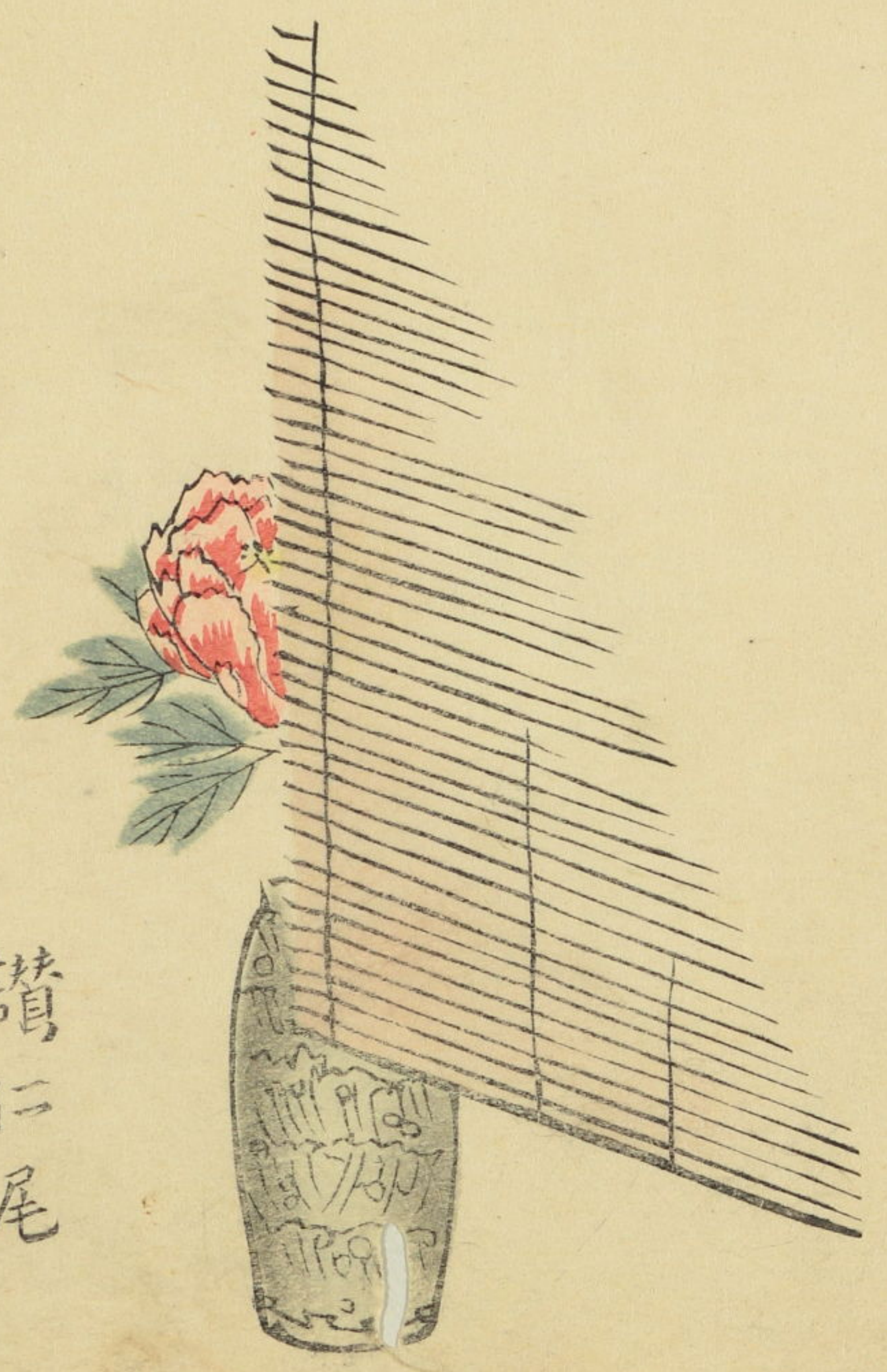
淡仁尾
宗池



掃
朽葉ノ籬

出
山

此花をさぐり目介



讚仁尾
白羽

讚比地
里
桂

長糸小蛇
蛸絲
居了野中
哉



浪華女
梅物

ゆき
ゆき

み
人の
き



あやこふ

あやこふ

あやこふ

あやこふ

淡仁屋

あやこふ



あやこふ

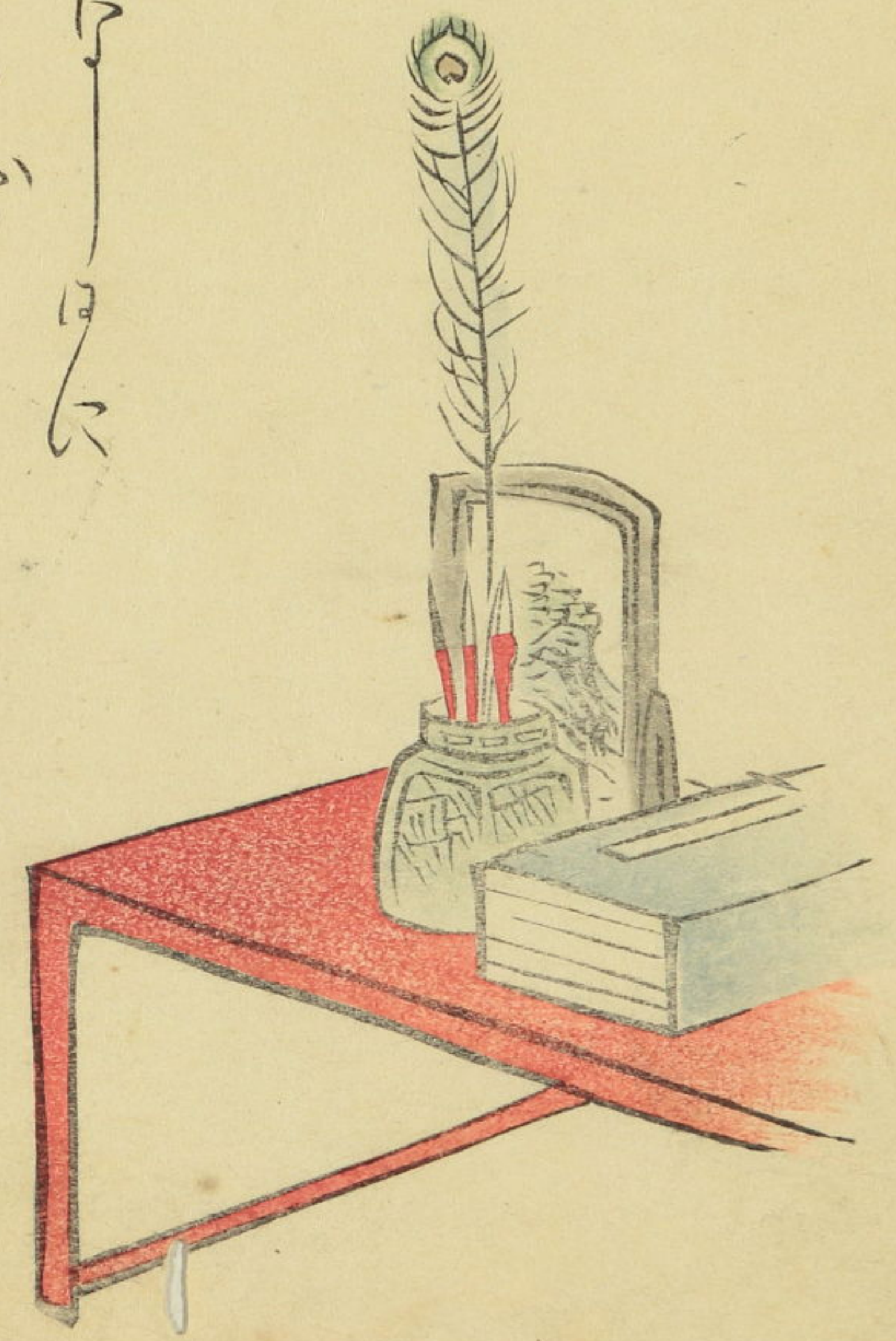
あやこふ

あやこふ

淡仁屋

あやこふ

松林涛
白洋



松林涛
白洋
二
三
四
五
六
七
八
九
十

蓬萊子

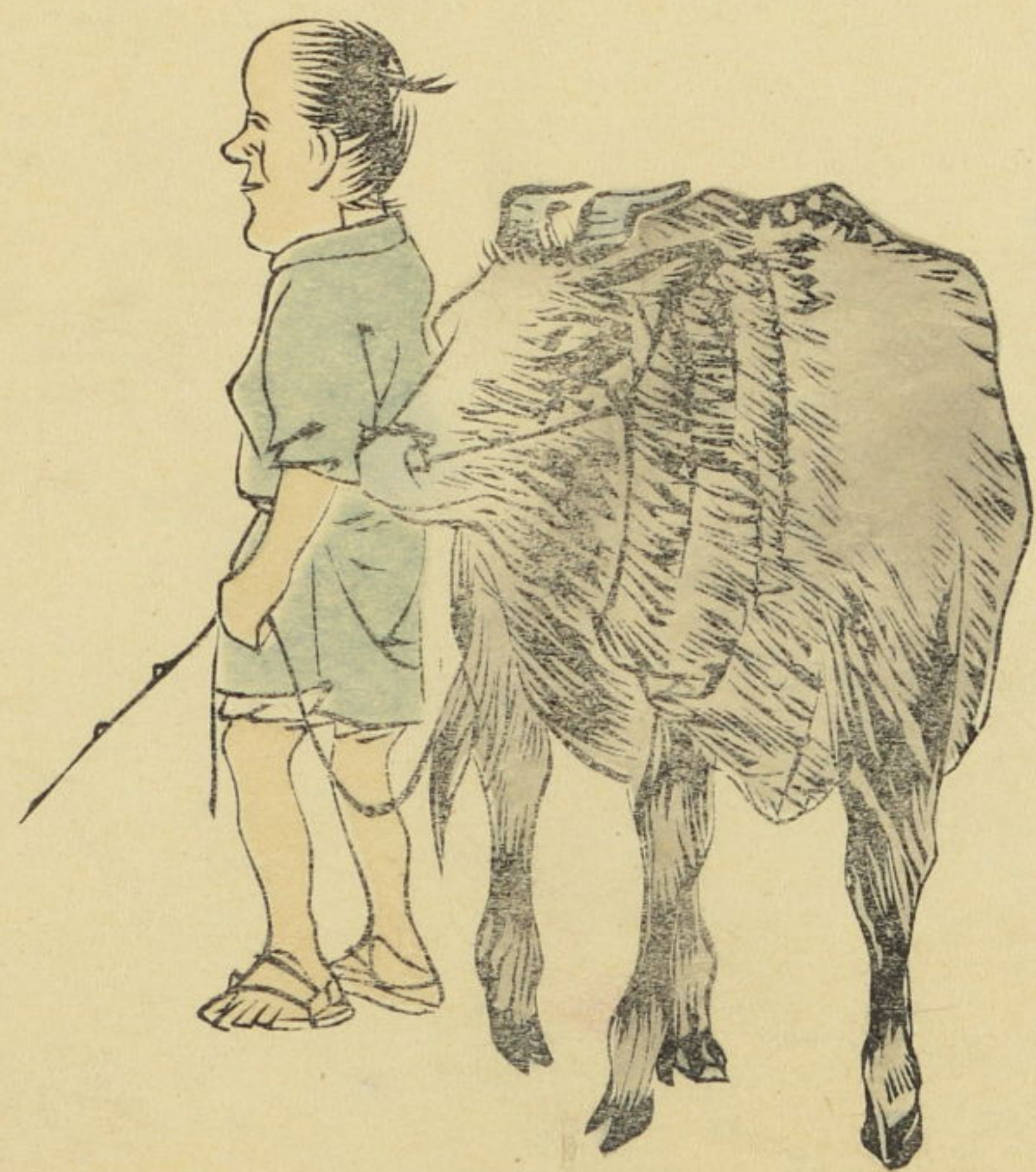
の

三
二
一



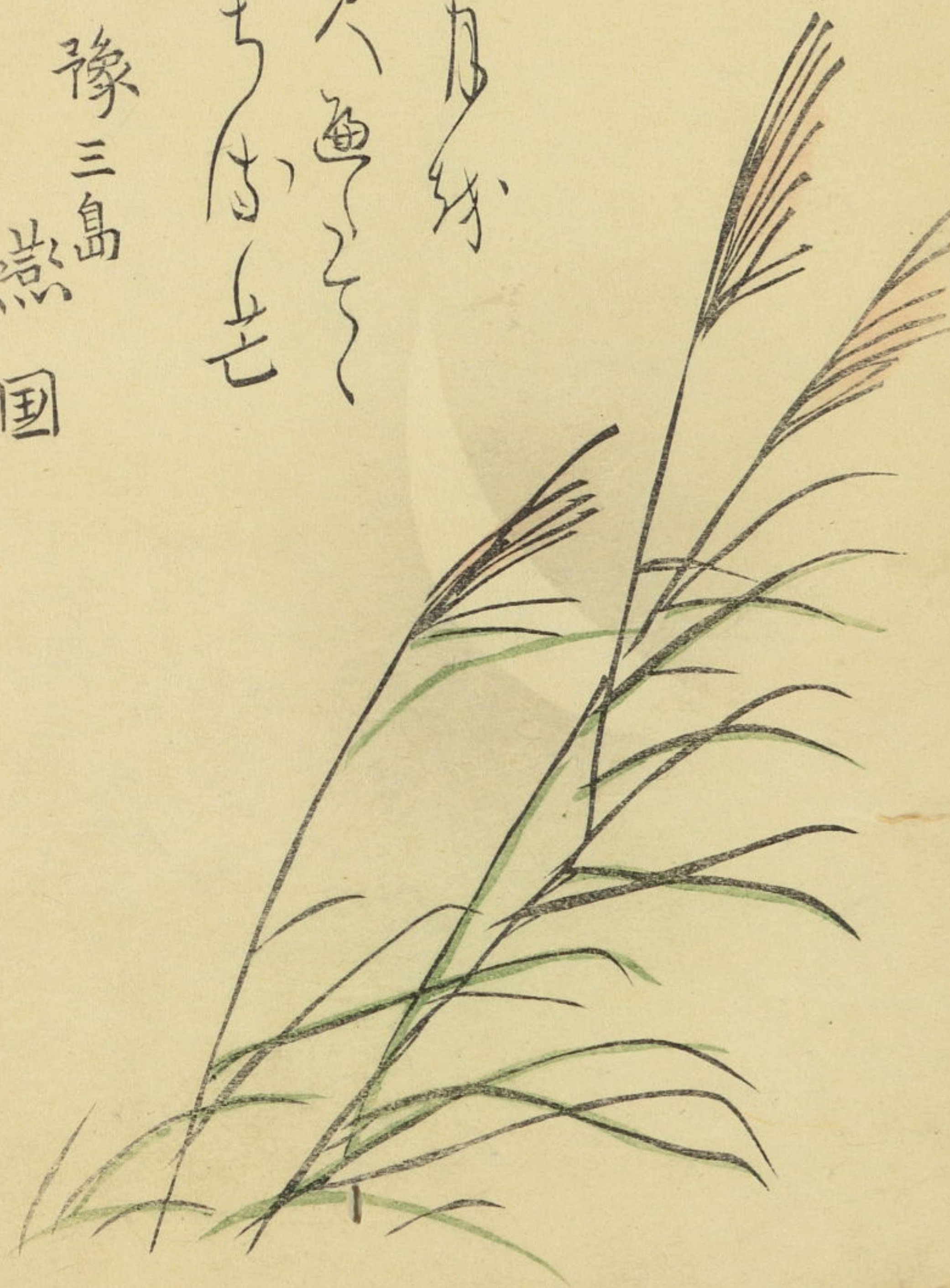
蓬萊子
飛久海

淡仁尾
 歌長
 踏
 花
 物
 花
 花
 花



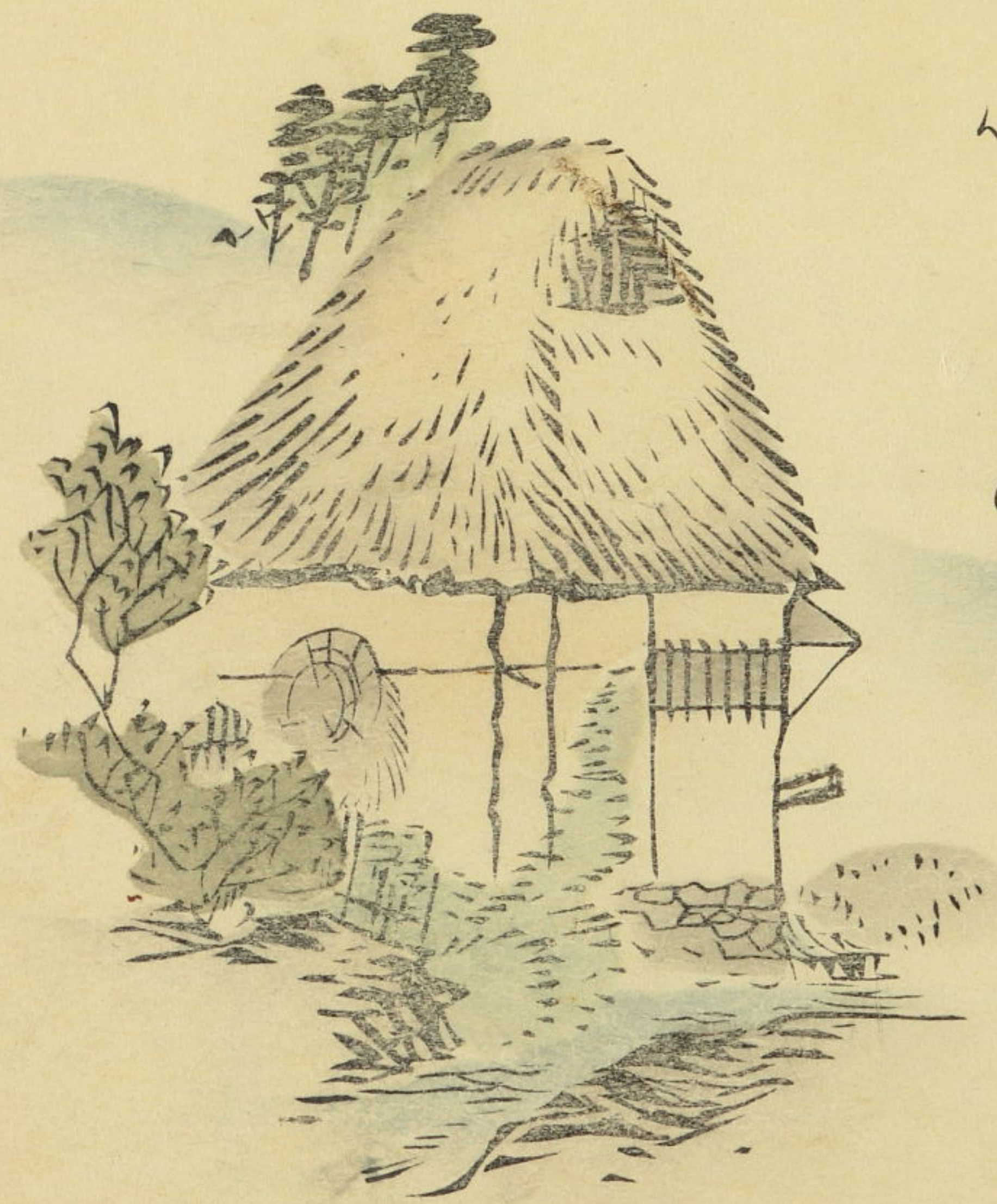
豫三島
 燕国

夕月
 夕月
 夕月

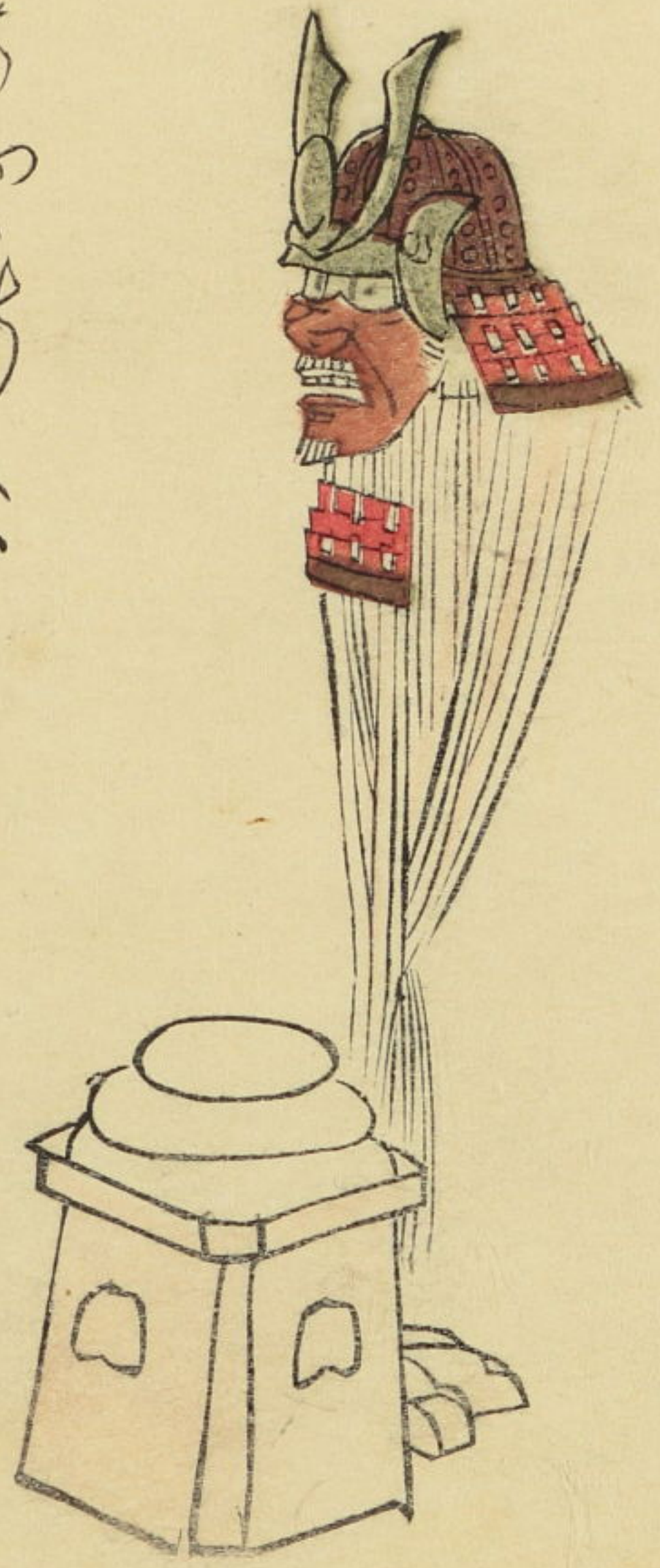


葛ヶ千草山の
橋のくさ

大坂
梅土



梅土と新
土風あやい子



孫今治
平之楨

攝神寄
仙李

日あつわ
み

きくうき

けね乃ま

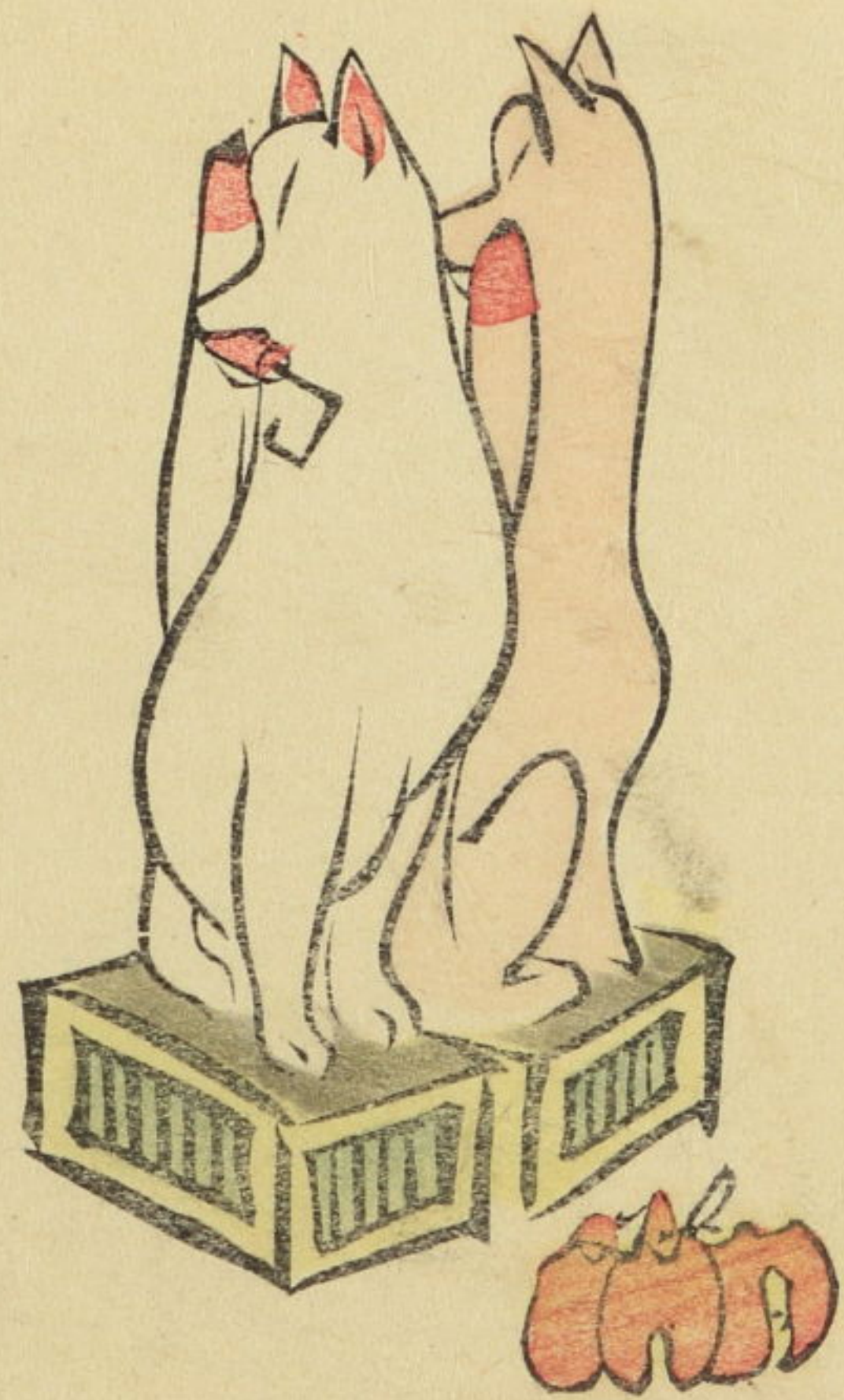


物風

きくうき

や

三月かな



吉梁
因

撮口谷
未徹



美代をうめぬ

のよ
おかしな

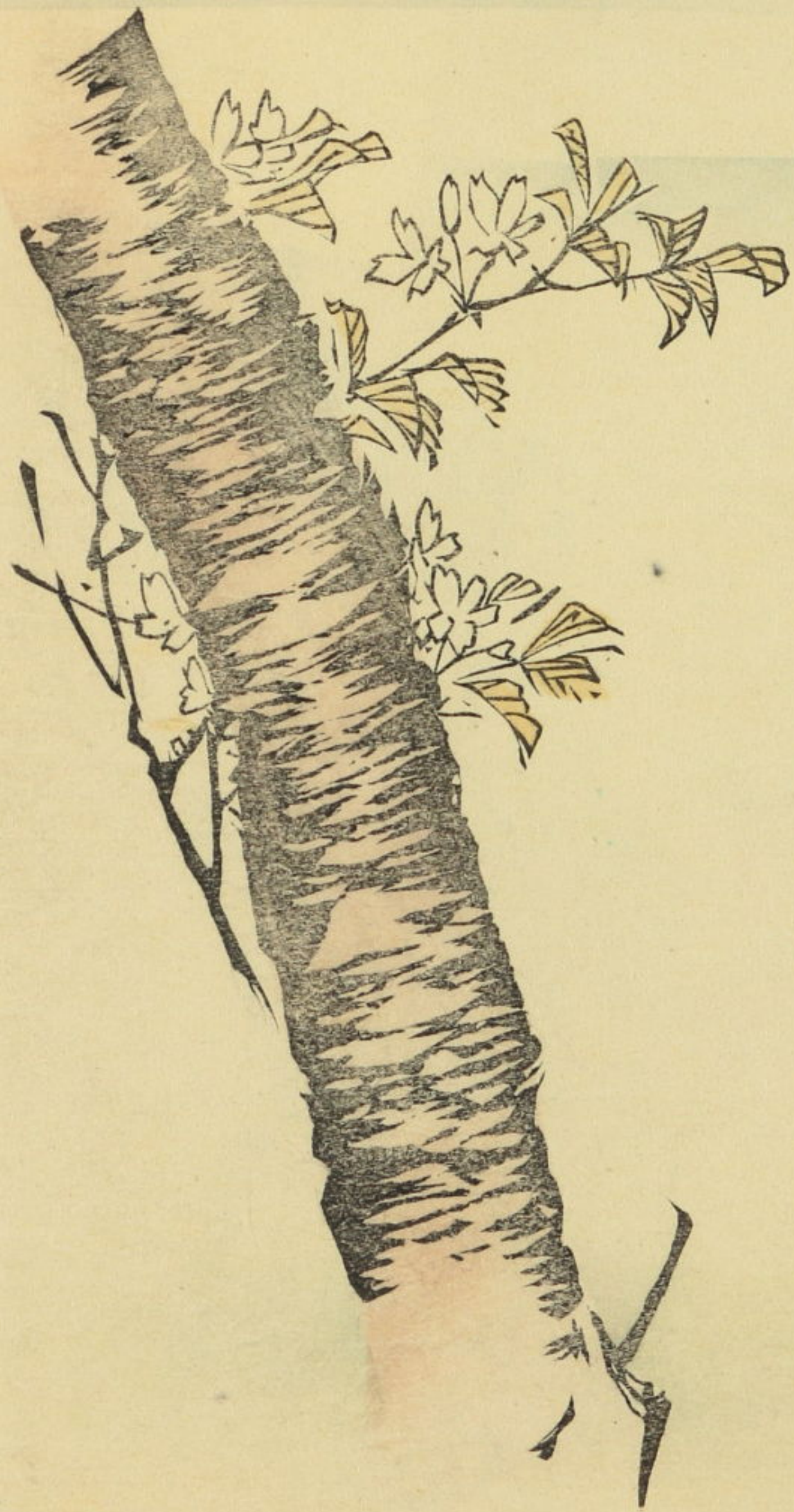
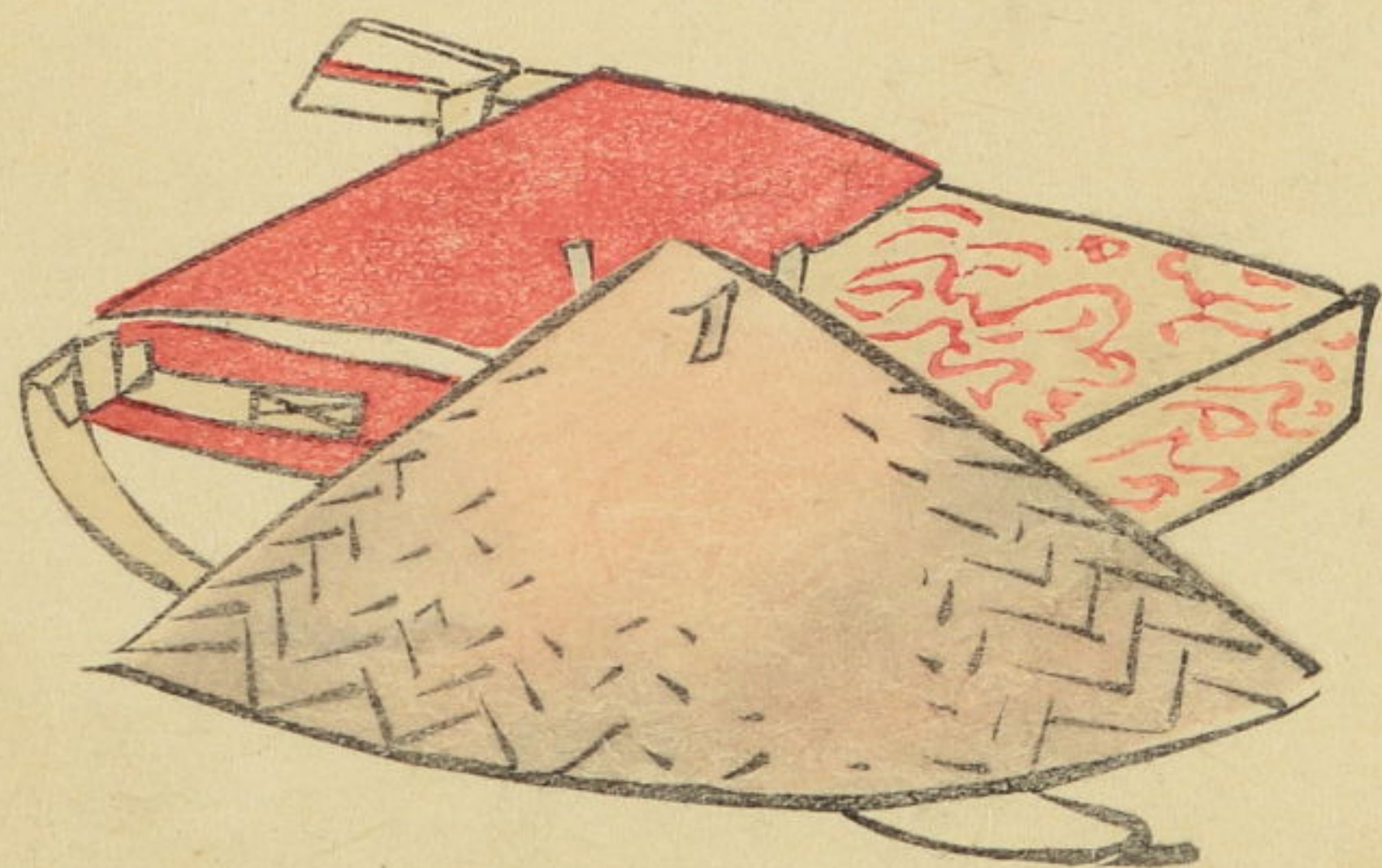
伊丹
比良



お
あ
う
ま
て

茶
い

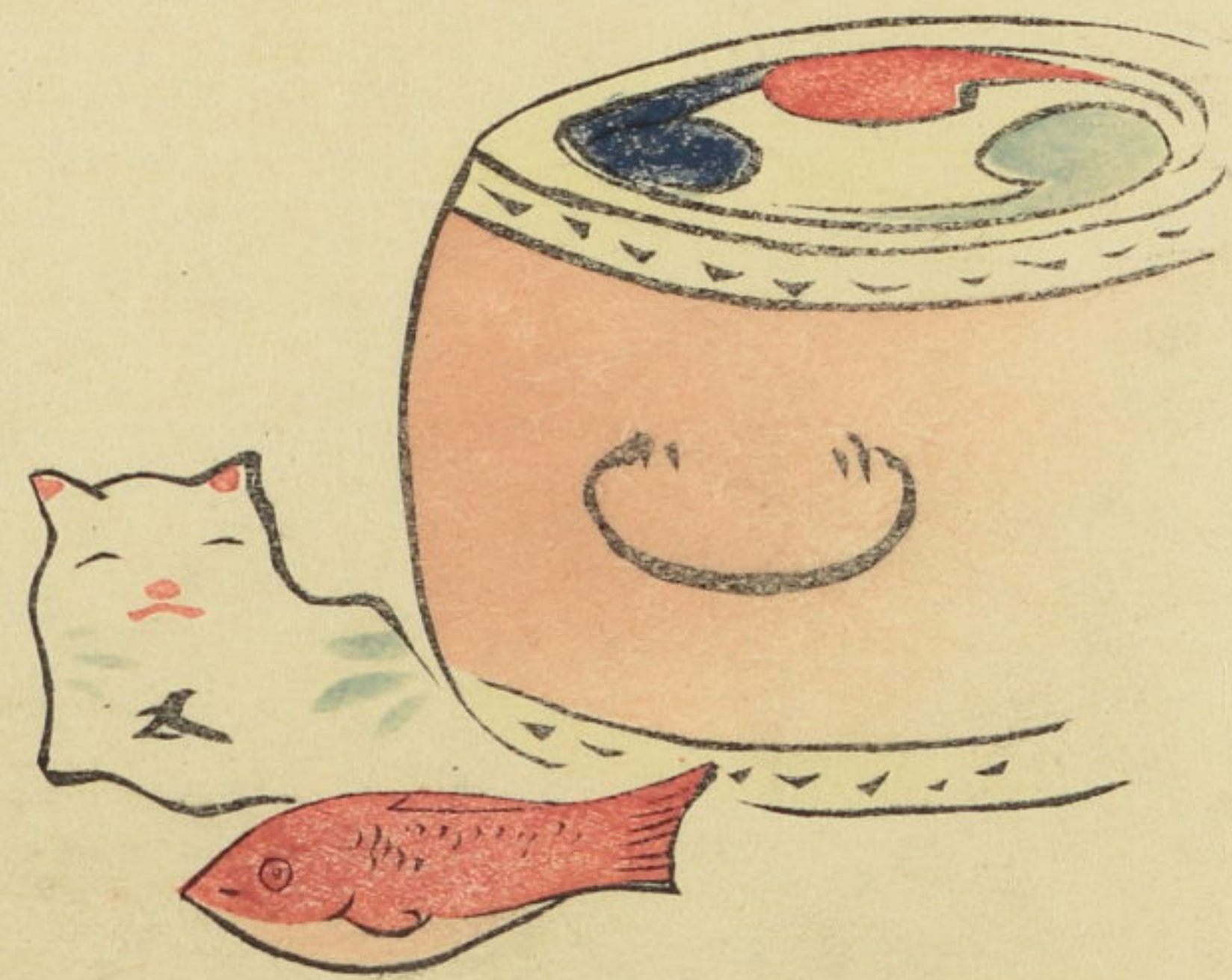
筑久苗米
 文角
 幸ひ人々
 文
 あはれ乃
 うし月
 籍



杉
 筑久苗米
 文角
 筑久苗米
 文角

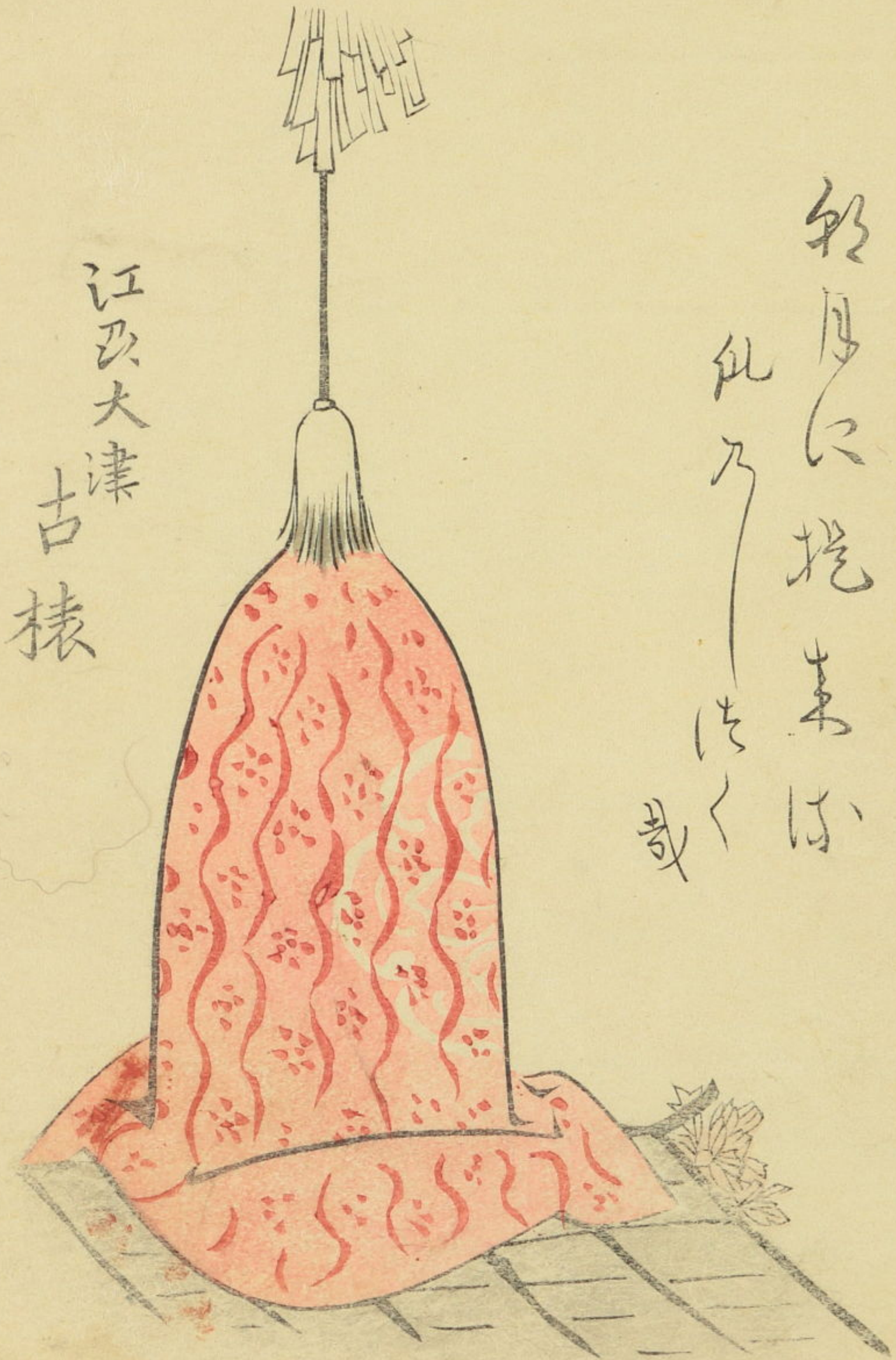
江戸大津
 古様
 江戸大津
 古様
 江戸大津
 古様

江戸大津
 古様



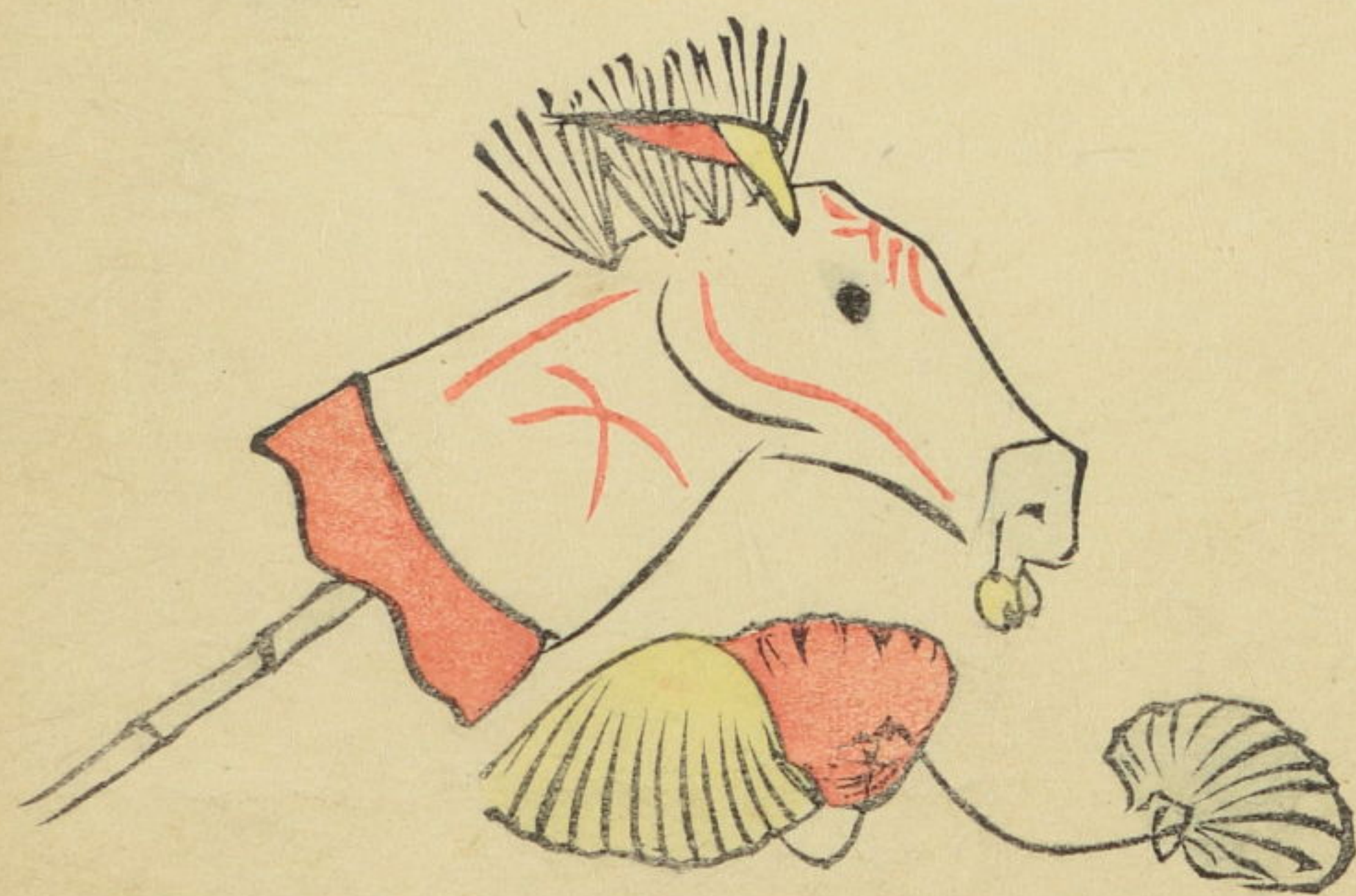
江戸大津
 古様

江戸大津
 古様



大坂
和
水

乃々乃々
乃々乃々
乃々乃々
乃々乃々



越
敦
笑
仙
草

大
詩
絃
お
の
の
の
の





我々も乃ち白くも
 去りしあしりも

越富山
 方三

もの香乃はく

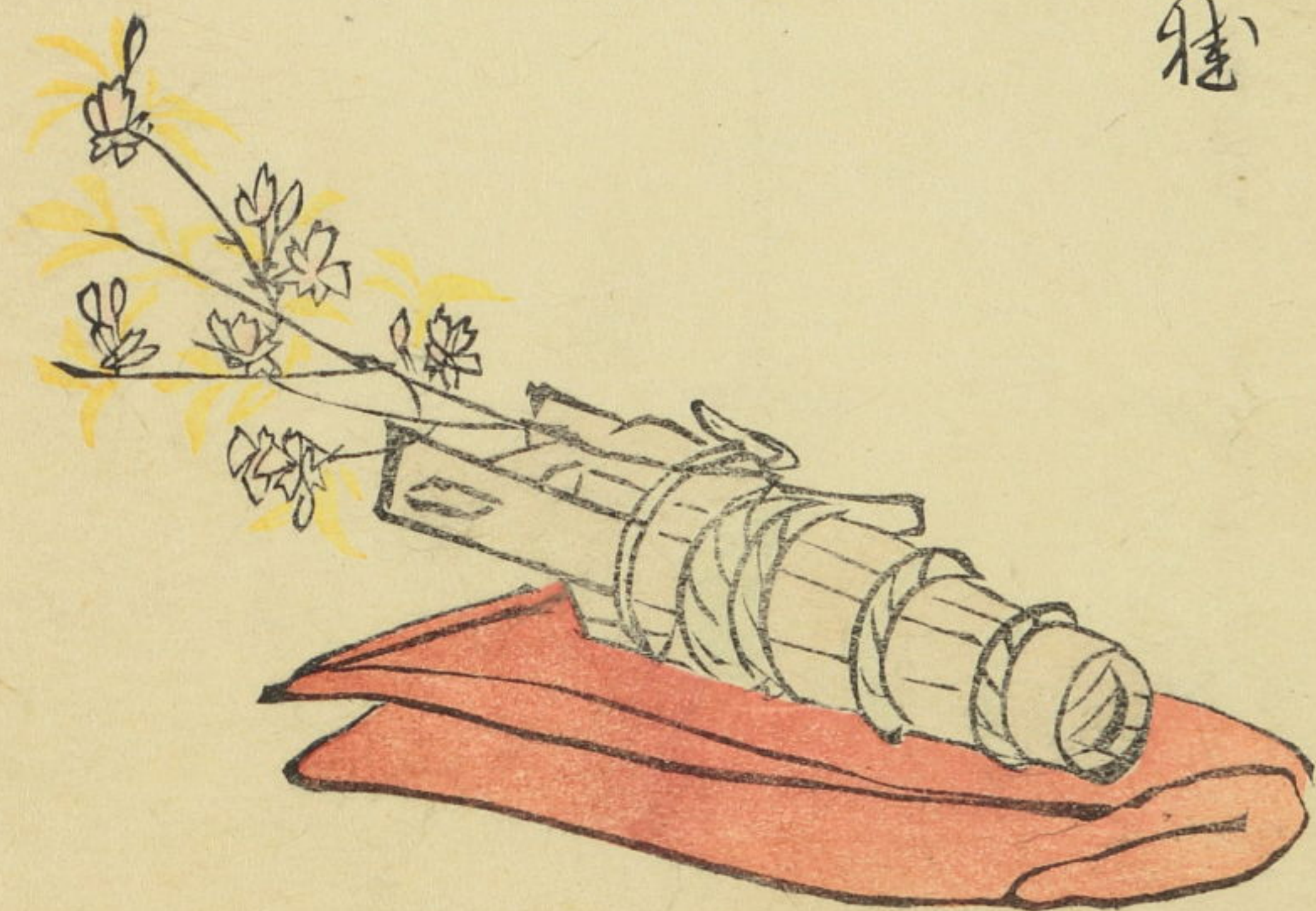
なまゆり神よ

あまの

うき

たけ

はあ



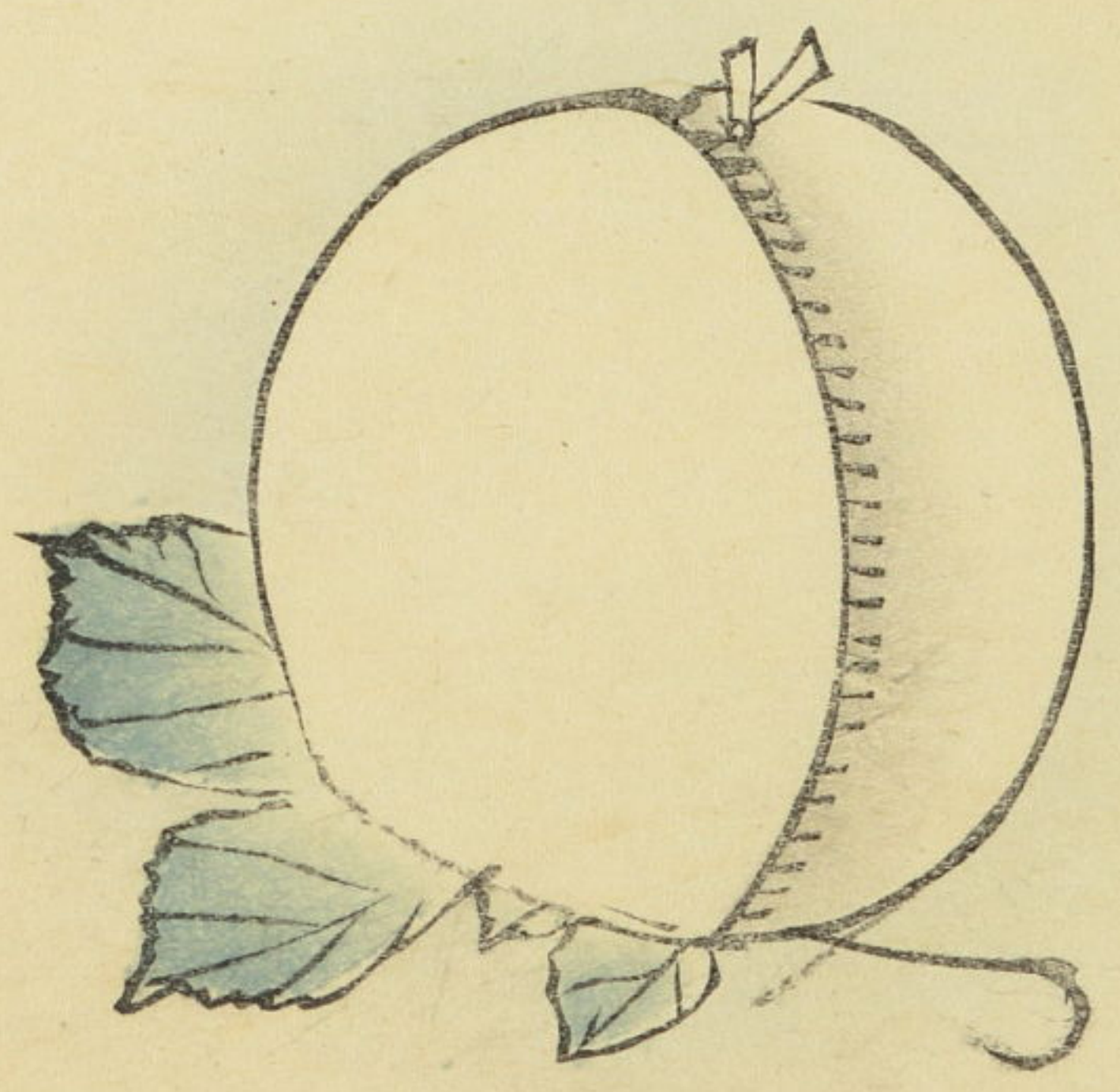
牛のあひハ

うらなほ

秋のま

あまのり

徳系糸
山嵐角



河富
田林
李郷

浦人よ

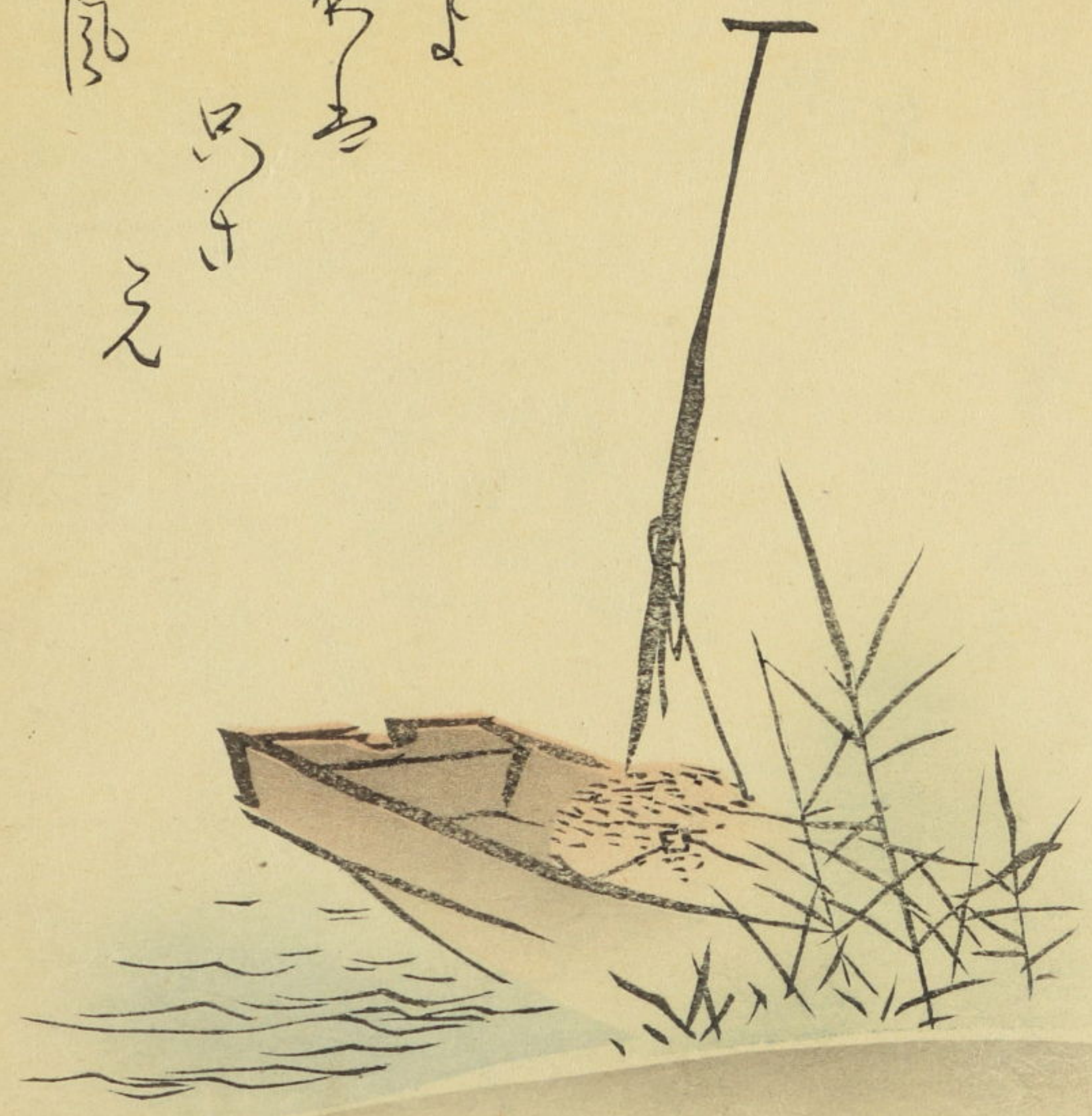
あま

あま

うら

あま

え





角切てあき乃
里とせかりに
けを

大坂
二五

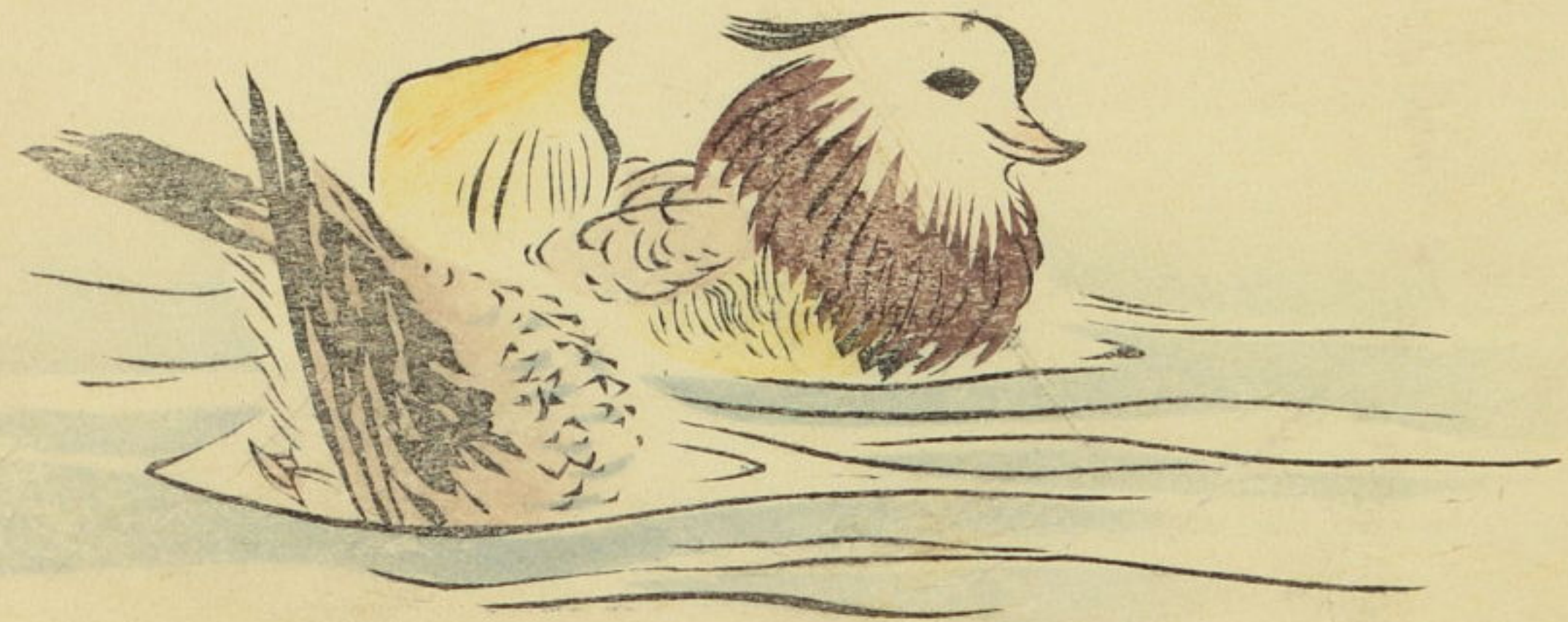
水きりきけい

よるやわ

こぞ

き

大坂
老胡



猿
 猿の
 猿
 さす
 田舎の
 大坂
 春哉



大坂
 遅柳
 かの
 かの
 流
 流



よき時々のきしわ
 出るるきしわ

江及三井寺
 千影



丁卯年五月廿一日

奉納之仙譜

松秋の中時かきぬき乃月
 香とあまのりけき秋の花
 雪とあまのりけき秋の花
 仙提ちりつ口くおの
 大勢くあまのりけき秋の花
 月乃くあまのりけき秋の花

井六
 宗直
 冬胎
 重井
 松士
 季胎

明^ウきしぬうちうあ言居^ウ
 うくしきまぬはく桶乃水
 ききもちうのゆ^ウの風
 逢しとあもはく^ウ
 只の山名乃あも山^ウ
 枝う^ウ一^ウ山^ウ柿^ウ若^ウ
 あ粘乃^ウ地^ウを^ウ靴^ウと^ウ又^ウ
 房^ウわ^ウ乃^ウき^ウい^ウる^ウの^ウ湯^ウ
 み^ウの^ウふ^ウれ^ウの^ウた^ウぬ^ウ
 芽^ウ乃^ウは^ウま^ウの^ウた^ウ
 廟^ウも^ウ乃^ウの^ウた^ウ
 い^ウく^ウて^ウも^ウ
 此^ウの^ウ鼻^ウ
 子^ウの^ウ株^ウ
 子^ウの^ウ株^ウ
 子^ウの^ウ株^ウ

女

考胡
 時年
 鍊石
 瑞馬
 巴陵
 衣集
 二中
 歌長
 仙芝
 梅士
 桃中
 三隣
 二
 善哉
 生柳
 玉芝

玄女傳もまはるるたしよる笑の僧

たしよるのちまゝ人々を能く

梅もちきよのけしむるあかた

冬乃侍るれちうくいますむ

灰汁桶のわろくく古まあや

いつのちまゝまゝまゝまゝ

七月此月の影いくもる川

霜端若老風記すむむ

うねく乃遊女にわく秋のそ

ま胎ももろけさくもるま

世無し火の世をまゆはる

人もも来く善乃年越

何乃香もまよふ急を神は花

ゆく神候く川杉杉のす

紫桂

長丸

初水

里桂

白羽

卜仁

蟬友

立寅

九蘭

一陽

市珠

梅也

正淫

執事

女

追加 四季混雑

細糸結末まうつは日月分

を山やき乃るよ秋新音

もちやそ木のるとなつぬ心の家

は陽秋日南まかや詩の勢

英夫をわしむせそ忘事マ

着水の音とまわぬ秋の月

夕月まよいつるそま焼指爪

秋仁尾

仁

秋

重井

耕又

寛候

札燦

騎牧

おぼえしてはあゝ里乃物城介

昔の整ふも候乃と申すは昔の昔

矣とやきめを信成の洞の人

大はやさしあるまはり物月奴

五ふ多喜と申越て橋木之礼

名ありてはに物も申すは日苗介

短お成月と申すはそは島介

水のと乃月と申すは田原介

と申すはそ成さしは橋つり

筆と申すはそ申すはあやもり介

志し物此かろふは日の子に

と申すはそ申すは果しは首をけ

その戸や言あはしつり内を出

来てんれいおはは言あは木橋介

大はらと申すは申すはり橋 矣

いとら申すはいとら申すはるそはる種

沼北

里明

喜蔵

司新

風馬

墨山

丁洲

牛後

手魂

孝新

孫彦

名郷

花里鳥

梅丸

拙

成

沼北

里明

喜蔵

司新

風馬

墨山

丁洲

牛後

手魂

孝新

孫彦

名郷

花里鳥

梅丸

拙

成

嶺岩城

竹梅山

汝木

作錦山

は家水文

筑右

善風乃世を驚くを極多
杜若流しきものはは見えぬ
踊るやおれ哉多うして物や
善海や厚乃ふまは流し
ひまのの富を物を善れを
幼妻 杉乃おれるとなり
山越え梯をたててまは情
さー結うるふとてあまね

あまのやあまのよーとて
さく物おれをたててまは情
昔のそらまき乃あはれ
物うまにるまの輪を越え
常るれゆつとてまは
編つるやたわすれは飯
まはまの流しきものはは見えぬ
善しきまのつとてまは

自笑

北金

錦士

魁大

斗石

仙路

巴陵

二才

時來

一陽

九蒲

蒼生

鍊石

方珠

桃士

魚眼

相石社

微雨社

中葉社

江古社

山清より新乃由くたる山清の女
片多む白と葉も持あも世に糸古を

季眼
宜白

遅來

終子停て暮より山嵐物るは日か
冬かたへ雪白此雪のつらあか
春の水多乃あふくは接ふり
ね風は跟をを若乃停あふ

伊名張
雲古

千枝女

うは女まし揚活の白ひや山乃お
冬いふや扇の子しそりふは
春のうせ水へも吹て暮るよる
若き乃老きのもあつる葉の林
あふれあちく秋却うは
山清よりあふもあふり日
と~~~~~中老あもふもふ古を

吟風女

不流

龜笑

遠濱松
哥石

花郎

可加志

丹波
武陵

法華經

靜海書院